



図書館だより

* 2月 *

NO.10

2009/02/02

ノートルダム学院小学校図書館

春はもうすぐ、でもまだ寒い……

2月3日「節分」、4日「立春」



冬が終わって春の季節に入る時。山形県のある地方では、「寒^{かん}ばなれ」、飛騨の白川地方では「節替(せつがわり)」とも言うそうです。まだまだ寒い日が続きますが、暦^{こよみ}の上ではもう春です。日あしは日に日に長くなり、窓^{まど}へには、日の光があふれてきます。そこでこの季節は「光の春」とも呼ばれています。



うめー輪^{りん}ーりんほどのあたたかさ

嵐^{らん}雪^{せつ}

春はもうすぐ…でもまだ寒い。そんな感じがよくあらわれた俳句ですね。京都では、雪の日は少ないですが、雪の多い地方では、この2月、雪を上手に利用して楽しいお祭りを行います。「札幌雪まつり」(北海道・2月5～11日)、「横手かまくら」(秋田県・2月第3土～日曜)、「十日町雪まつり」(新潟県・2月第3金～日曜)など、どれも全国から多くの観光客が訪れるお祭りです

でも雪は、楽しいことばかりではありません。雪国のきびしいくらしもあります。スキー合宿では、雪国のくらしについてどんな話を聞きましょうか。中谷宇吉郎(1900～1962)は、30年間雪や氷の研究を続けた人で、雪の結晶を「六角型」「つづみ型」など18に分類しました。雪のこと、雪国のくらしのことを調べてみましょう。

- 「かまくら」(齊藤隆介著・国土社)
- 「雪の写真家ベントレー」(マーティン著・BL出版)
- 「雪の上のなぞのあしあと」(あべひろし著・福音館書店)
- 「雪の一生」(片平孝著・あかね書房)
- 「雪のかたち」(片平孝著・フレーベル館)
- 「雪国のくらし」市川健夫著・小峰書店)
- 「雪国のくらし」(次山信夫著・ポプラ社)
- 「雪国の自然とくらし」(市川健夫著・小峰書店)

図書委員の心に残る一冊・読書好きにしてくれた本

- 「妖界ナビ・ルナ」(池田美代子作・琴月綾画)…竜堂ルナとタイ、2人がどうなっていくのか、タイがなぜ目をもっているのか、都和子先生がなぜいなくなったのか、おどろきがたくさんつまってて、悲しくて、でも面白い本です。(R21・小笠原)
- 「きまぐれロボット」(星新一著)…奇想天外な事が書いてあって、星新一が書いた本が好きになりました。(R23・山内)
- 「わたしは心を伝える犬」(ゆんみ著)…耳が聞こえないけど、活発でなんでもちようせんしてしまう、ゆんみとベルジアン・グロネンダールのサミーのお話です。まわりの理解がなくてつらい時もあるけど、少しずつサミーと一緒に前に進んでいく本です。(R24・林)
- 「へそまがり昔ばなし」(ロアルド・ダール著)…この本には、みんなが知っている昔ばなしがたくさん入っています。けれど、内容や結末が残酷に。けれどどこか楽しい、おもしろいように変えてあります。それと、この本には、文章のあらゆる場所に韻がふんであり、とてもリズムカルに読めます。(R17・西村)
- 「兎の眼」(灰谷健次郎著)…(R17・柏木)
- 「101匹わんちゃん」(ディズニー)…(R18・松浦)

6年生のみなさんへ

図書館の本の返却を2月末日までに完了しましょう。- 発^たつ鳥あとをにごさず -